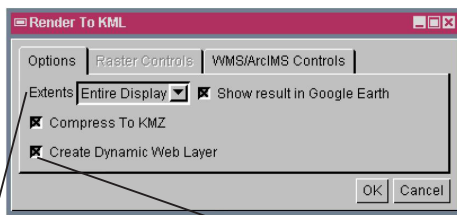


WMS/ArcIMS レイヤを KML や KMZ にレンダリングする

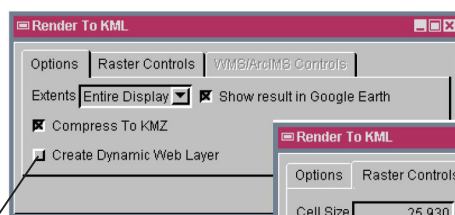
ご存知でしたか?... ウェブマップサービス (WMS) や ArcIMS レイヤを含むグループやレイアウトから、KML や KMZ ファイルを作成することができます。

WMS/ArcIMS レイヤを KML や KMZ にレンダリングすることで...

- KML や KMZ ファイルに、グループやレイアウトの他の内容と一緒に WMS や ArcIMS を格納することができます。
- WMS や ArcIMS レイヤをネットワークリンクやローカル画像として KML や KMZ ファイルの中に格納することができます。
- 動的な WMS や ArcIMS レイヤの内容が変更された場合、自動でアップデートします。
- 計算されたセルサイズやローカル画像の形式を自動調整します。

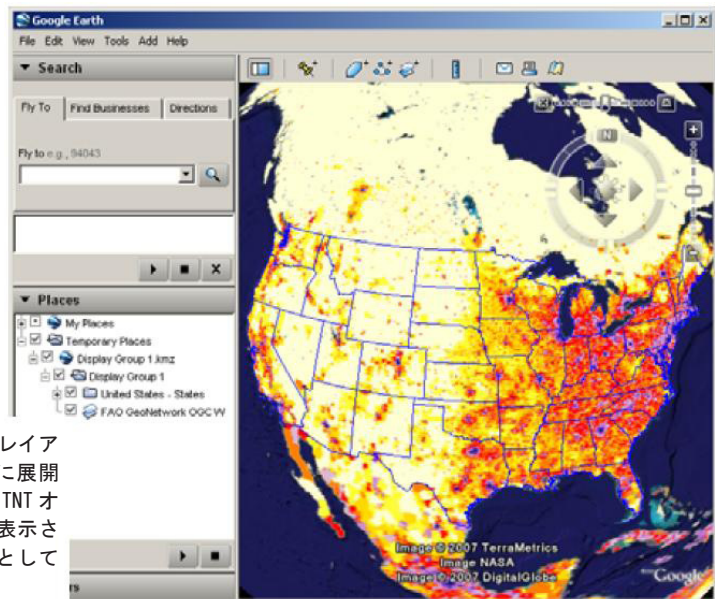
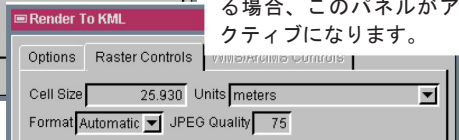


WMS や ArcIMS レイヤが動的なウェブレイヤとしてレンダリングされた場合、「範囲 (Extents)」での選択に関係なく WMS や ArcIMS レイヤの全範囲が参照されます。



WMS や ArcIMS レイヤを動的なウェブレイヤとしてレンダリングする場合、このトグルを押して下さい。

WMS や ArcIMS レイヤをローカルまたは静的な画像としてレンダリングする場合、このパネルがアクティブになります。



WMS やベクタレイヤのあるグループが KMZ ファイルにレンダリングされ、Google Earth に表示されています。

KML や KMZ ファイルを Google Earth で表示すると、レイアウトの中の各グループが [場所 (Places)] パネルに展開可能なフォルダとして一覧表示され、オリジナルの TNT オブジェクトは別々のサブフォルダの中のグループに表示されます。WMS レイヤもグループの中のサブフォルダとして一覧表示されます。

WMS/ArcIMS レイヤを KML や KMZ にレンダリングする方法

- 表示処理において、WMS や ArcIMS レイヤを含む既存のレイアウトやグループを開くか、新規レイアウトやグループを作成して WMS や ArcIMS レイヤを追加します。
- [表示 (Display)] > [レンダリング (Render to)] > [KML] を選択して <KML にレンダリング (Render to KML)> ウィンドウを開きます。
- ネットワークリンクを含む KML や KMZ ファイルを作成する場合、[動的なウェブレイヤの作成 (Create Dynamic Web Layer)] ボタンを押します。
- [OK] ボタンを押してデフォルトで KML や KMZ ファイルを作成します。

さらに知りたいことがあれば...

以下のテクニカルガイドをご覧ください：

空間表示 : WMS や ArcIMS レイヤを KML にレンダリングする
(Spatial Display : Render WMS and ArcIMS Layers to KML)

